

数学的に新たな「和」の解の一つを導く

1. ×

異質なモノ、機能の掛け合わせ

和の伝統文化である「銭湯」



×

アメリカ発祥の「バー」

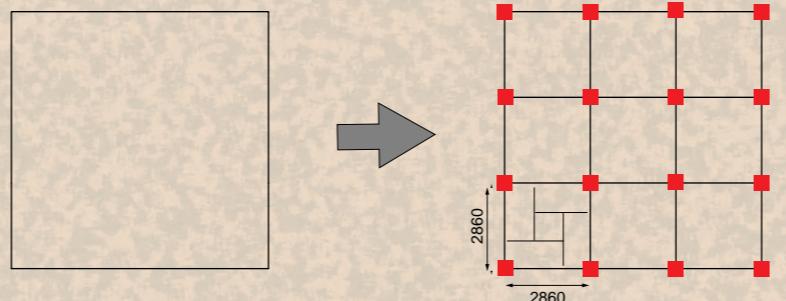


裸の付き合いがとれ、非言語コミュニケーションの場である銭湯
一人または少人数でお酒を飲む場であるバー
外国人観光客と現地の人々、どちらにも親しまれる空間を創る。

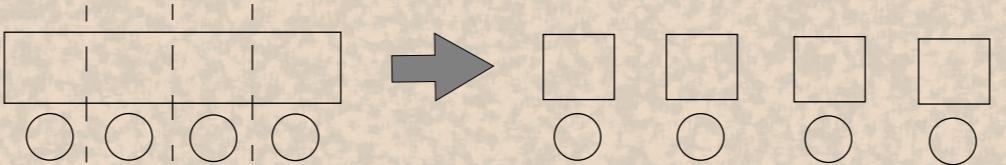
2. ÷

分割、分配

空間を4畳半という和の基本単位のグリッドで分割する。
4畳半の大きさは、広すぎず狭すぎず、公共空間において自らの領有意識をもつことのできる最適な空間である。



バーの従来の横並びの客席を個別化し、酒と向き合う場を創る。



数学的に「和」を解くため、×÷を先に実行する

3. —

身体性のみを残す

余計な機能を全て削ぎ落とした結果、残るのは身体性のみの空間である。

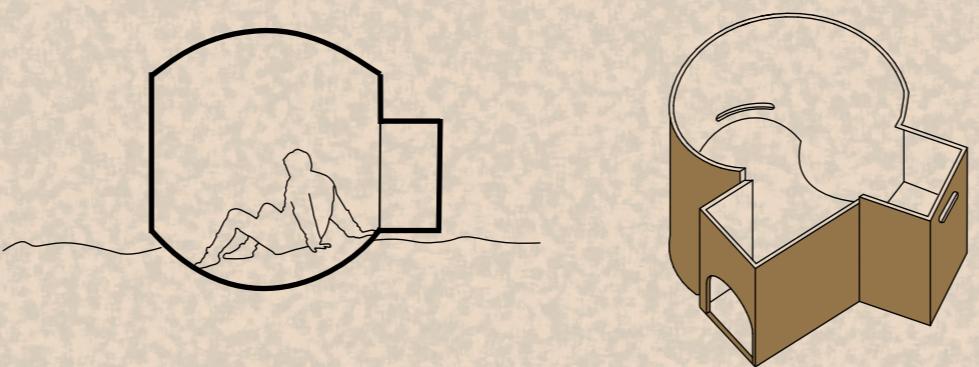
千利休は2畳のような極小茶室好み、茶と向き合った。

分割されたバーの客席において、身体性以外の機能を削ぎ落とし、

1対1で酒と向き合う身体が必要とするだけの空間を創り上げる。

・重力と身体性

銭湯の大浴場に浮かべたこの客席個室は、浮力により弱まって感じる重力と、湾曲した床によって、人間がより自らの身体を感じ、新たな感覚的重力を得る。

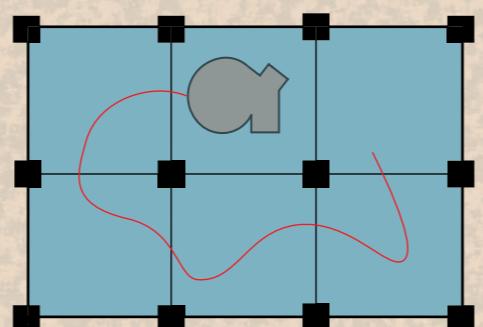
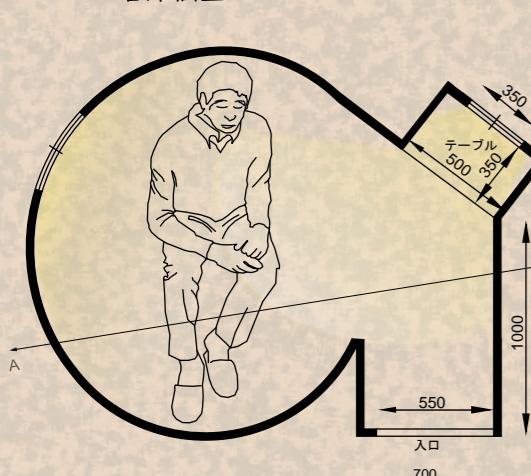


客席個室 Plan 1:30

客席個室 Section 1:50

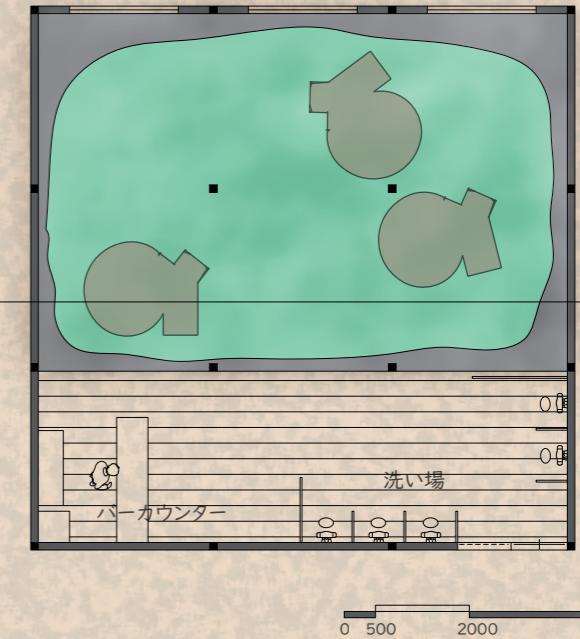
・光と身体性

入口付近には光が当たらず、光のある奥へと引き込まれる。
暗い部屋に入るわずかな光により五感が研ぎ澄まされる。

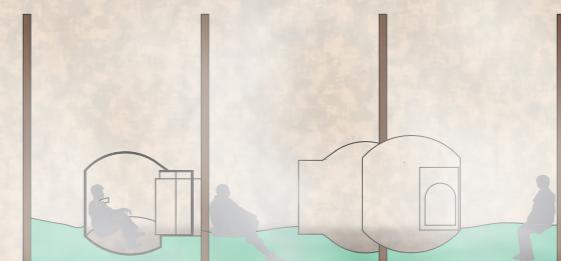


浮かび漂う個室は、グリッドを崩しながら予測不可能な動きを見せる。
グリッドがつくる領有意識は徐々に崩れ、訪れた人々の距離は、物理的にも心理的にも変化する。

銭湯の洗い場では床に座って自由に酒を飲む



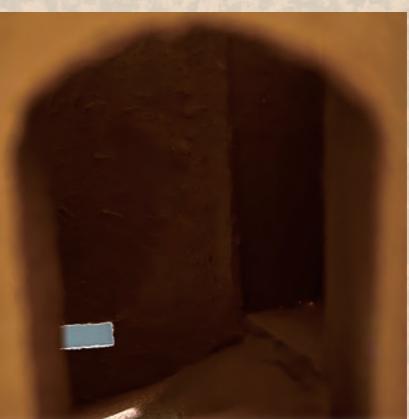
銭湯 Bar Plan 1:100



銭湯 Bar Section A-A' 1:100



足元に入る僅かな光が五感を刺激する



身体性のみを残すと空間が無限に感じる



この和の方程式を用いて私は解の一つを導き出しただけにすぎず、どのような機能・プログラムでも方程式は「和」の空間へと変貌させ、その解は無数に存在する。